

## 平成 29 年度 社会福祉法人オリーブの会事業報告

社会や人とのつながりをつくり、ひとりひとりを大切にしたい、多様に生きることが出来る環境・社会をつくる。

各事業の役割を分担し、連携しながら、法人として多様な役割を果たせるように努める。

就労継続支援 B 型事業所 オリーブホットハウス（東野・オリーブ農園）

特定計画相談支援事業所 オリーブ相談支援事業所

こころのふれあい交流サロン るまんやましな

共同生活援助 グループホーム小山の家

### ■基本方針

#### ① 安定した法人運営

職員の採用を軸にそれぞれの事業所において安定した事業運営の基盤整備を行った。B 型は、5 月に職業指導員として常勤職員を 1 名、9 月に非常勤職員を 3 名採用した。また、グループホームは、8 月頃より入居者が入り、本格稼働したことにより、世話人を 2 名、生活支援員を 2 名、夜勤職員を 2 名雇用した。

障害者総合支援法の改正に伴う事業の整理については、各関係機関より最新の情報収集に努めた。

地域の関係機関と連携し、地域のネットワークへも積極的に参加した。また、行政への要望活動等を連携し実施することができた。地域内で法人として多様な役割を担うことで、安定した運営に努めた。

#### ② 今後の事業展開の構想

B 型は、醍醐寺の工賃を検討し、30 年 4 月より最賃として設定した。今後事業の広がりも期待できるため、スタッフ体制や事業移行について検討していく。圃場の確保や加工場の整備等の検討を行ったが、具体的には実行に至らず、30 年度に継続して検討していく。

共同生活援助は、総合支援法の改正に伴い、日中サービス支援型等の類型や新規事業である自立生活援助事業を検討した。今後利用者や地域ニーズに基づき具体的に、新たなサービスの指定を検討していく。

サロンはスタッフの変更に伴い、事業運営の仕組みを変更し、体制整備を行った。

#### ③ 人材や設備への投資

29 年度末に農福の助成金が確定し、加工で使用するフードコンベクション、ラベルプリンター、販売で使用するプリンター機能を有したレジを購入した。また、出店やレク等で使用するため、8 人乗りのワンボックスカーを購入した。

東野・小山とも非常勤スタッフを採用し、事業の整理・効率化を図った。各事業所の機能を最大限に発揮できるよう、予算の使用、職員の採用等を今後も継続的か

つ計画的に実施していく。

#### ④ 業務水準の向上

各事業所の機能強化を目的に毎週木曜日の全体ミーティングを例年通り実施した。内容については、より連携がとりやすいよう、また全体として事業の進捗がわかるように適時内容を変更した。個別支援計画の充実へ向け、作成におけるケースカンファレンスの効率化を図った。ノートルダム女子大学に佐藤先生に来て頂き、専門性の向上のため隔月の勉強会を行った。また、外部研修へも参加を促し、知識や資質の向上に努めた。採用した職員については、具体的なOJT体制等が確立できていなこともあり、離職につながったため、今後職場内におけるOJTやフォロー体制を確立し、育成・定着の体制を整備していく。

### 平成29年度 オリーブホットハウス事業報告

#### ■活動内容

##### (1) 就労支援事業

各項参照。

##### (2) 地域ボランティア清掃

月に1回約30分をかけて東野、小山各事業所周辺やバス停等の清掃を行った。

##### (3) メンバーミーティング

毎月月初に実施。前月のレクリエーションの画像をスクリーンで映す等、メンバーの積極的な参加を促した。また、希望や要望を聞き、サービスの質の向上に努めた。

##### (4) レクリエーション

別表参照。

##### (5) 教室活動・文化活動（るまんやましな）

歌のサロン、絵画教室を実施した。京家連の文化の集いやこころのふれあい夏祭りへるまん音楽隊として参加した。サロンで絵画教室等の絵を飾る、絵画展も実施した。

##### (6) 給食

東野は月曜、木曜、金曜日、小山は月曜、水曜、木曜日にそれぞれの事業所でメンバーに補助をしてもらいながら調理を行った。

##### (7) オリーブだより、情報公開・情報発信

オリーブだよりを年に4回（6、8、1、3月）発行した。HP、Facebookにて出店や普段の作業の情報発信を行った。

##### (8) 地域ネットワーク

各種ネットワークに積極的に参加した。参加ネットワーク：山科こころの健康を考える会、京都市東部障害者自立支援協議会（グループホーム部会）、京都精神保健福祉施設協議会（広報部、京都市障害者自立支援協議会虐待防止検討部会、福祉サービス運営適正化委員会）、山科区地域福祉推進委員会、京都社会就労センター協議会（セル

プ事業推進委員会、近畿社会就労センター協議会、全国社会就労センター協議会)等。

(9) 実習生・ボランティア受け入れ

○精神保健福祉士養成

大阪保健福祉専門学校、ノートルダム女子大学、京都府立大学、佛教大学

○精神看護実習

京都第二赤十字看護専門学校

○ボランティア

風のリンケージ、地域住民、学生

○チャレンジ就労体験

京都市社会福祉協議会より、実習1名を受入

(9) 家族・地域交流

○学区民生委員・社会福祉協議会とのランチケアやフリースペースを通じた交流

○よつ葉の会員さんや保育園等との芋ほりや農作業を通じた交流

○手作り市や学園祭、季節毎の催しへの参加

○山科や他の圏域の子ども食堂への野菜提供

○地域住民の方々とのお歌サロンや写生会等のサロン共催事業における交流

○農福事業を通じた、他事業所や農家、八百屋等との交流や販売会の実施

(10) 業務委託

会計指導を中村修二税理士事務所へ委託した。また、就業規則に改正に伴い、社会保険労務士太田事務所に相談を行った。

(11) 理事会・評議員会の開催

理事会

第1回 平成29年5月27日(土)

第1号議案 平成28年度事業報告案、第2号議案 平成28年度決算案

第3号議案 新役員選任案

第2回 平成29年6月17日(土)

第1号議案 理事長・業務執行理事の選任

第3回 平成29年8月31日(木) ※決議の省略

第1号議案 就業規則改正案、第2号議案 賃金規則改正案

第4回 平成28年10月23日(月)

第1号議案 理事長・業務執行理事の職務執行報告、

第2号議案 今後の事業展開

第3号議案 京都式農福連携補助金について、予備費の流用について

第5回 平成30年3月26日(月)

第1号議案 理事長・業務執行理事の職務執行報告

第2号議案 京都式農福連携補助金に伴う支出について、車輛の購入について

第 3 号議案 平成 29 年度事業計画案、第 4 号議案 平成 29 年度予算案  
 第 6 回 平成 29 年 3 月 18 日（土）

第 1 号議案 平成 29 年度事業計画案、第 2 号議案 平成 29 年度予算案

評議員会

第 1 回 平成 29 年 6 月 17 日（土）

第 1 号議案 平成 28 年度事業報告案、第 2 号議案 平成 28 年度決算案

第 3 号議案 新役員選任案

●平均工賃

29 年度	人数	金額	平均		28 年度	人数	金額	平均
4 月	38	434,650	11,438		4 月	39	355,520	9,115
5 月	38	311,680	10,647		5 月	38	402,120	10,582
6 月	38	369,870	10,629		6 月	38	377,670	9,938
7 月	38	425,540	10,062		7 月	37	383,720	10,370
8 月	39	381,870	9,791		8 月	39	445,370	11,419
夏期	40	207,700	5,192		夏期	38	180,600	4,752
9 月	41	379,030	9,245		9 月	38	354,260	9,322
10 月	38	381,420	10,037		10 月	38	398,190	10,478
11 月	38	428,660	11,281		11 月	36	382,570	10,626
12 月	45	394,710	8,771		12 月	34	346,580	10,193
冬期	44	443,400	10,077		冬期	40	288,400	7,210
1 月	44	411,790	9,359		1 月	35	366,290	10,465
2 月	45	377,580	8,391		2 月	36	363,570	10,099
3 月	44	436,760	9,926		3 月	37	449,170	12,139
合計	570	5,604,380	9,832		合計	523	5,094,030	9,740

11,231

11,454

●登録者数 50 名（平成 30 年 3 月 31 日時点）

平均年齢 46.1 歳 男性 32 名（67.4%）、女性 18 名（32.6%）

●登録 11 名

保健センターより紹介	2 名
支援センターより紹介	2 名
医療機関より紹介	4 名
他事業所より紹介	2 名
高次脳機能障害者支援センター	1 名

※見学者 26 名

●退所 6名

利用意向がない	3名
就労	1名
引越し	1名
その他	1名

●就労 2名

29.10 ホテルギンモンド京都 リネン回収、清掃業務

29.11 グループホーム小山の家 生活支援員

●利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ利用者数	559	554	602	522	497	545
開所日数	25	22	23	21	22	21
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ利用者数	541	545	569	533	546	600
開所日数	27	24	23	20	20	23

延べ利用者数の計 (A)	6613人	開所日数の計 (B)	271日	$A \div B$	24.4人
--------------	-------	------------	------	------------	-------

●月平均通所者数 28.0名 (26.2名)

東野 17.6名 (16.5名)

小山 10.9名 (10.3名)

●年間総作業時間 18475時間 (17618.5時間)

●月平均作業時間 1539.6時間 (1468.2時間)

東野 980.0時間 (868.9時間)

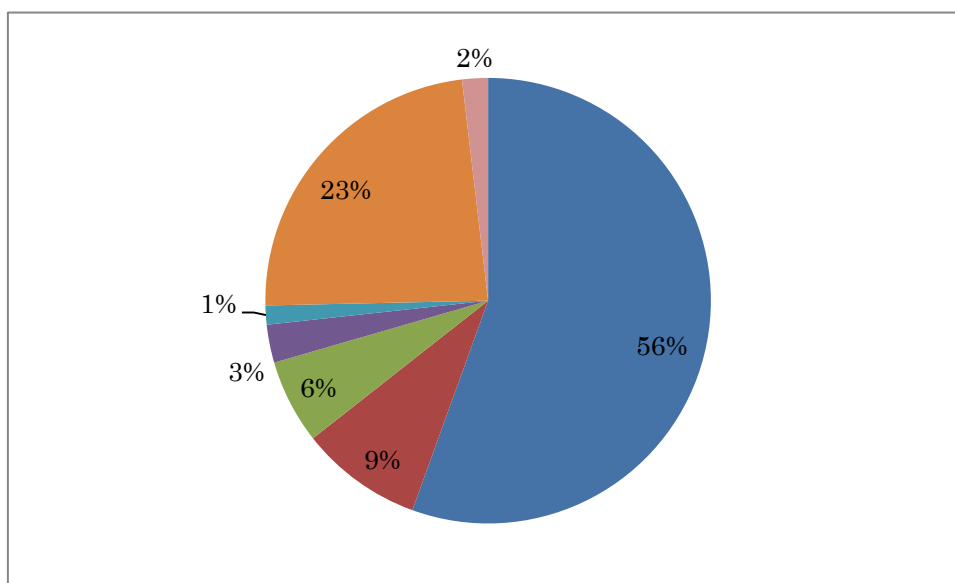
小山 599.6時間 (599.3時間)

## 2. 就労支援事業

事業計画に基づいた事業運営を行うため、進捗状況を4半期毎に確認し、達成状況の確認や課題の再整理を行い、PDCAサイクルの徹底に努めた。新たな仕事を依頼されたり、こちらから働きかけたりと、各部門の更なる充実に努めた。作業が多岐に渡ることによって事業所としての一体感やメンバー同士の交流が減ってきていることは課題だが、メンバーがより主体性を発揮し、自らの仕事を選択し、役割を持ち、やりがいを得られるよう、個別支援の充実に努めた。秋頃には例年以上の出店に参加し、つながりの中で新たな販路開拓や取引に結び付いている。工賃の向上だけでなく、就労支援事業を通じ、地域の中でメンバーを支えることを実践した。

	平成28年度		平成29年度	
	金額(円)	構成比	金額(円)	構成比
年間授産収入	10,549,695	100.0%	10,604,662	100.0%
内訳				
(1)畑	5,520,379	52.3%	5,972,126	56.3%
(2)自主製品	888,245	8.4%	952,640	9.0%
(3)内職	756,436	7.2%	658,860	6.2%
(4)春日丘	298,000	2.8%	302,000	2.8%
(5)サロン	138,450	1.3%	144,850	1.4%
(6)醍醐寺	2,430,548	23.0%	2,520,000	23.8%
(7)スマイル	118,831	1.1%		
(8)その他	398,806	3.8%	199,036	1.9%

※その他 ヤマト運輸手数料 etc



(1) 畑（生産、加工・製造、販売） 年間売り上げ 5,972,126円  
仕入代 1,109,325円

小計	月	東野	加工	小山野菜	小山加工	出店野菜	出店加工	ふれあい大家	なかよし会
297,706	4月	39,450	26,970	8,860	21,330	13,960	73,580	0	2,300
438,158	5月	56,190	18,580	32,950	13,250	5,250	42,450	1,050	4,300
381,435	6月	105,460	13,500	33,700	7,350	5,300	18,750	4,120	1,250
490,529	7月	134,960	15,230	83,935	750	43,100	200	0	2,960
516,553	8月	126,435	16,140	42,285	0	0	0	7,350	700
487,092	9月	127,180	10,300	30,710	998	25,900	38,650	4,750	1,500
678,557	10月	95,310	36,400	26,430	15,060	25,150	155,110	3,300	1,900
602,785	11月	64,650	52,220	37,300	20,170	50,950	150,310	0	4,400
379,474	12月	53,570	57,780	36,200	14,230	38,050	58,750	600	1,800
379,538	1月	65,350	62,610	17,940	11,170	20,750	32,150	900	850
342,245	2月	66,340	86,680	24,790	14,840	6,550	9,860	2,600	2,950
410,984	3月	63,900	64,920	126,200	0	0	24,750	1,150	2,500
5,405,056	小計	998,795	461,330	501,300	119,148	234,960	604,560	25,820	27,410
100.0%	#VALUE!	18.5%	8.5%	9.3%	2.2%	4.3%	11.2%	0.5%	0.5%
部門別	東野、小山、出店合計					2,973,323			
28/29年度差額		123,870	210,190	338,312	39,713	-377,691	589,060	-81,530	-12,440
最終目標額	6,350,000	1,100,000	500,000	450,000	150,000	400,000	600,000	50,000	50,000
		90.80%	92.27%	111.40%	79.43%	58.74%	100.76%	51.64%	54.82%

よつ葉	京滋	ほっとはあと	やましな	浅川亭	こども食堂	ヴィダ	エルファ	musubi-ya	山科工房	るまん	その他
64,920	24,086	0	2,350	450	0	0	4,700	0	0	10,800	3,950
211,364	28,474	0	6,450	6,400	0	0	6,250	0	3,050	0	2,150
71,610	63,645	2,700	6,025	5,830	4,950	0	0	16,900	1,425	0	18,920
24,620	57,094	2,100	13,245	15,090	0	0	13,325	24,925	2,105	26,880	30,010
132,950	57,183	0	42,670	10,520	800	6,910	5,265	21,370	7,815	20,420	17,740
40,086	110,393	0	15,885	11,120	5,800	2,080	5,525	19,510	5,685	26,020	5,000
136,614	90,623	0	13,760	7,455	3,400	3,480	7,600	24,035	4,360	12,720	15,850
35,886	40,604	0	13,440	10,590	2,500	2,040	18,140	7,020	2,825	11,040	78,700
0	48,779	0	0	5,850	3,000	3,000	4,150	15,500	2,595	16,920	18,700
53,159	36,744	0	25,195	12,750	0	1,500	4,075	10,380	2,535	12,480	9,000
36,676	50,759	0	0	4,450	1,000	0	2,800	5,000	2,430	8,640	15,880
48,474	79,090	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
856,359	687,474	4,800	139,020	90,505	21,450	19,010	71,830	144,640	34,825	145,920	215,900
15.8%	12.7%	0.1%	2.6%	1.7%	0.4%	0.4%	1.3%	2.7%	0.6%	2.7%	4.0%
注文合計											2,431,733
-16,399	31,128		53,170	46,355				126,215	22,055	77,580	113,405
750,000	1,100,000	10,000	150,000	100,000	50,000	50,000	100,000	250,000	40,000	250,000	200,000
114.18%	62.50%	48.00%	92.68%	90.51%	42.90%	38.02%	71.83%	57.86%	87.06%	58.37%	107.95%

### オリーブ農園

畑全体としては利用者の増加に伴い、事業計画を基に28年度から継続している作業の機能分化を進めてきた。しかし、作業の分化が進むことは畑での生産作業と室内での加工作業とのバランスの変化が生まれ、メンバー間のコミュニケーションの分化という変化も生まれ、メンバー間の交流が分断される可能性があることにも配慮が必要である。これについては分化に伴う修正が引き続き必要になるため、分化だけにこだわらず、分化することのメリットと、全体として取り組むことのメリットをスタッフが理解し、全体のバランスを見ながら、メンバーそれぞれに対して不利益にならないよう配慮することが引き続き求められている。ただ、メンバーの人数増加にあたり、より多様な特性の方が通えるようになり、週1日の半日など、短い時間でも利用意向がある方に対して支援を提供できるようになってきている。そういった個性への合理的配慮も含め、サマータイムの導入について

でも朝と夕方に作業時間を分け、それぞれの体力、体調、作業内容、目指しているものに合わせた作業環境の提供を行うことができた。

そういった中で、登録後3、4年のメンバーがしっかりと力をつけ、就労への意欲の高まりや、ハローワークへの登録など、それぞれが目指している人生に着実に向かっている。しかし、それはそれぞれのメンバーに対して、より適切な支援が行えるだけの支援者の専門性の向上も必須となるため、研修や勉強会、スーパービジョンを通して個々の職員のレベルアップができる環境づくりと、職員のキャパシティとメンバーの状況が乖離しない持続可能な支援環境、労働環境になるよう適切な運営が求められている。

畑全体としての収益から見ると、目標の6,000,000円には届かなかったが、作業に従事しているメンバーへの規定工賃を支払うことができるだけの収益を上げることができた。しかし、目標への到達に際して、年度計画と日々の作業への連動性の低さがある。達成できなかった要因は、年度計画から月間計画、週間計画へと落とし込む作業が曖昧になり、最終目標へのイメージと行動が具体化していないことで、振り返りと目標の再設定を行うPDCAのサイクルに則って業務が行えるよう業務改善を行っていくことが求められる。これらの課題については30年度しっかりとその改善策を講じていく。

## 生産

生産については例年通り、作付け計画を軸に生産体制を敷き、冬場の寒い時期等思うように野菜が採れない時期もあったが、ここ数年の天候不順にも少しずつ対応できるような作付けの調整を行った。その結果として大根などの主要な作物については、市場に数が減ってもオリーブにはあるという状態にすることができた。しかし、調整を行うことで、管理が予定と違い流動的になり、より農業的な専門性が求められることになる。こちらについても専門性の向上が必須になるため、各スタッフの専門性の向上をしつつも、ルーティン化が可能な作物への軌道修正等も視野にいれ、専門的な知識がなくても出来る作業へと変更を行っていく必要がある。

生産活動を通しての地域交流については、芋ほりだけでなく、保育園、よつ葉ホームデリバリー京滋、山田製油等と連携し、農園へアクセスしてもらえる交流イベントを開催し、農園に足を運んでもらう機会が増え、啓発活動へと繋がっている。そのあたりの成果もあり、現在取引先が増えてきている。スマイルがなくなり、その売り上げ分の販路をつくることが求められていたが、様々な交流を通して、売り上げを確保できるだけの取引数へと展開している。しかし、こちら取引数が増えると管理や配達等のコストが発生するため、30年度はどの取引先とどのような事業を行っていくかをしっかりと計画し、実行していくことが大切である。



## 販売

販売ではレジの導入を踏まえて、店舗の整理と作業環境の再設定を行った。レジ導入が年度末になり、現在進行形で調整を行っており、まだ成果がでていないか評価しにくいいため、引き続き 30 年度も調整を行っていく。

メンバーの作業従事については、新たに従事するメンバーと辞めるメンバーと様々おり、作業提供が安定しなく、この状態が現在も続いているため、引き続き働きやすい環境への改善を行っていく。またレジ導入に際して、作業の難易度が上がる部分があるため、メンバーへの指導や作業環境の調整についても課題が見えてきた年となった。PDCA のサイクルに基づいて、より良い店舗へと改善を行っていく。

売上については 29 年度もここ数年と同じような横ばいであるが、新たな外注品を販売し、少しずつ商品の充実をはかり、アンテナショップとしての機能の確立を目指してきた。店舗の環境と雰囲気については少しずつではあるが、目指す店舗へと変化をしてくれている。

またそういった少しずつの変化の結果として、出店で販売を通して、よりオーリーブとしての周知が進み、そこから野菜を買いたいというお店や人が、店舗や農園にアクセスしてくることも多くなっている。ただ生産量が多くなっているわけではないので、店舗での販売を第一に生産と連携をしながら、販売を行っていく。

## 加工

新しい乾物の製造は、規格外や売れ残りの茄子の活用方法として乾燥なすを一昨年より始めた。保存方法を検討し、かびが生えることなく干す方法も見つけたが、半年の振返りの際に昨年度の在庫を使って乾燥茄子の良い調理方法を検討すること等を優先すべきと判断し、今年度の規格外などの茄子はピタパンやおやきの具材として加熱と冷凍による保存を行った。

パンの製造は、食パンは、るまんやましなで販売しているトースト用として検討したが、現在の機材を含めた製造体制では食パンだけではコストが高くなることがわかった。他のパンの製造も検討したが、販売に適したものかどうかを確認できていなかったため、一端保留し、大型機材を導入した後再度検討することとした。

野菜・ハーブを使った商品開発は、野草茶として初夏に収穫した柿の葉茶、冬の初めにオーリーブの木を選定したことをきっかけにオーリーブの葉茶を作った。今年で 3 年目の出店となるロームシアター京都でのマルシェで販売を始めた。また、昨年度クリスマス時期にローズマリーを使ったケーキをマルシェを中心に販売し好評であったが、今年度は製造で優先する作業がほかにあったため新たなハーブを使ったレシピ作りには着手しなかった。毎年夏時期に無農薬野菜として定番で生産しているモロヘイヤを使って加工作業に従事するメンバーが努力し、シフォンケーキのレシピを完成させることができた。6 月より販売を始め、るまんやましなに来店するお客様を中心に好評を得ることができ、多い月で 60 個以上の販売実績があった。店舗にて販売をしている平飼卵の美味しさを伝えることをひと

つの目的として、平飼い卵を使ったカステラを2月より販売を始めた。従事するメンバーの努力があり、新しく販売したシフォンケーキやカステラはお客様に喜んでいただける商品となった。また、メンバーの菓子作りへの興味や楽しみ、やりがいを深める機会となった。

おやきの量産化は、販売を始めてから3年程がたち、出店先やるまんやましなにて、お客様に手軽に食べられ、喜んでいただける商品となっている。出店では多いときで150個用意したおやきが完売するときもあった。そのような多くの数を用意は普段加工作業に従事するメンバーだけでなく、加工作業への興味や出店準備に協力したいというメンバー達が作業に分担して携わることで可能となっていた。今年度は沢山の出店販売に何とか対応できたが、まだ安定した製造体勢を作ることができず、目標だったよつ葉への販売には至らなかった。

日々の業務として、店舗やるまんやましなを中心に、おにぎりやピタパンを製造・販売してきた。日々メンバーが製造に従事することで、その製造体勢が可能になっていた。年間を通じてみると、味などの工夫が行き届いていないことで売れ残る商品が多くなり、特に第三四半期以降は、そのことを反省点として、ピタパンでは味のバリエーションをソースの違いで作ること、おにぎりでは、季節を感じさせる具税を用意することなどにより、購入増につながる工夫を試みた。

## 東野

内職、自主製品作業を行った。個々の支援計画に基づき作業を通してメンバーの自己実現を目指し支援を行うとともに、それぞれメンバーが通所や作業を続け居場所として交流の場として活用できた。

(2) 自主製品                    年間売り上げ 952,640円  
   総作業時間 2,647時間

今年度は新たに5人のメンバーが自主製品作りをされるようになり、特にさをり作業を希望するメンバーが増え、それぞれのペースで作業をしておられる。メンバー同士で助言をする場面が度々見られるようになり、着実に力を付けている。また、今までのメンバーも作業を継続、時間の積み重ねが作るものの質を上げており、出来る事が増え作業への意欲につながっている。ボランティアの方は引き続き3名、今年に入り1名増え、現在4名に来て頂いており、地域とのつながりの役割を果たしてもらっている。それぞれの関わりの中で価値観や発想の違いを認識でき、メンバースタッフとも認め合い、違っていいという事を理解できる機会になっている。

季節と出店や納品に合わせ制作をしてきた。特に、敬老ショールへ取りかかる期間（お

およそ6月から8月中頃)を除いた前後の期間は、他の織物・縫い物を計画的に制作することができた。

昨年度売れ行きを伸ばしたマフラーは売れた本数は減っているが、単価を上げたことで売上金額はほぼ変わっていない。

帽子は作りやすいように織る段階から変更を行い、順調に制作販売できている。

サークルボール入れは常時ではないもののストックを持って、注文が重なった際も迅速な対応ができた。一人で制作できるメンバーや、ミシンに関わるメンバーが増えており、例年夏頃から注文が増える傾向があり、早めに対応していきたい。

以前から在庫としてあった糸や布を使用しながら、メンバー主体の製品が作れるよう配慮や工夫をしてきた。しかし、頂いたものだけでは選択肢が狭まっているのと、出来上がりが似たものになってしまっており、今年度は在庫の物を使いながら新しいものを揃えていきたい。

こだわりを持って作った製品(主にポーチ)を匠と称し、販売を行った。単価を上げ納品した物は売れている。シリーズとして複数の物を制作したかったが実現できていない。担当メンバーのペースに合わせながら引き続き制作していく。

H29年度 自主製品売り上げ 目標 850,000									
	ほっとはあと	東野	シーツ	出店	その他	合計	総時間	工賃/1h	材料費
4月	32,180	5,200	21,000	30,200		88,580	223	397	
5月	15,800	7,900	0	8,800		32,500	202	161	
6月	18,070	3,500	61,000	0		82,570	189.5	436	42,750
小計	66,050	16,600	82,000	39,000	0	203,650	614.5	331	42,750
7月	10,200	1,800		2,000		14,000	217	65	540
8月	14,110	3,100	21,000	1,000	夏まつり景品代 3,000	42,210	242	174	
9月	19,330	4,900	25,000	7,500		56,730	225.5	252	
小計	43,640	9,800	46,000	10,500	3,000	112,940	684.5	165	540
前期合計	109,690	26,400	128,000	49,500	3,000	316,590	1,299.0	244	43,290
10月	14,490	8,700	42,000	19,900	敬老(25枚) 169,690	254,780	214	1191	1,728
11月	39,700	10,800	31,000	45,150		126,650	247.5	512	
12月	20,510	7,100	36,000	5,100		68,710	235.5	292	
小計	74,700	26,600	109,000	70,150	169,690	450,140	697	646	1,728
1月	11,510	6,000		9,800	洛西景品 31,900	59,210	225	263	41,909
2月	11,060	6,400	21,000	2,800		41,260	225.5	183	
3月	6,640	4,000	59,000	15,800		85,440	218.5	391	
小計	29,210	16,400	80,000	28,400	31,900	185,910	669	278	41,909
後期合計	103,910	43,000	189,000	98,550	201,590	636,050	1366	466	43,637
総合計	213,600	69,400	317,000	148,050	204,590	952,640	2,665.0	357	86,927
	22%	7%	33%	16%	21%	達成率	112%		

(3) 内職 年間売り上げ 658,860円

総作業時間 4,912時間

メンバーの体調、個性を考慮し、安定したいろいろな作業を準備し、臨機応変に対応できるように配慮した。それぞれのメンバーの出来ることが増え、メンバー同士で役割分担を自然にできるようになった。メンバー自身の能力の向上により、就職や、他の作業への移行といったスキルアップするメンバーが増えていった。

3つの主軸作業（畳紙、袋折、お守り）について、安定して継続しているが、単価の高い畳紙の体数の減少（月平均3000枚減少）により、他の作業で体数を増加しているものの、追いつかず売上はダウンしてしまった。畳紙が減っていく、なくなった時の対策として、畳紙のレンタル部門の開拓や袋折の紐付け作業等、既存の取引先の中での仕事探しを今年度はすすめられた。

新規の開拓作業は、形にはなっていないものの、動き始めているのであきらめず、継続して、進めていきたい。

H29年度 内職売り上げ		目標 670,000円							
	大曜	畳紙	京都奉製		その他	合計	総時間	工賃/1h	
4月	14,598	52,680	3,242			70,520	452	156	
5月	6,781	46,306	3,625			56,712	496.5	114	
6月	11,882	51,320	3,599			66,801	471	142	
小計	33,261	150,306	10,466		0	194,033	1419.5	137	
7月	13,333	44,454	3,960			61,747	433.5	142	
8月	6,689	37,164	3,693			47,546	394	121	
9月	4,800	38,198	2,758			45,756	373	123	
小計	24,822	119,816	10,411		0	155,049	1,200.5	129	
前期合計	58,083	270,122	20,877		0	349,082	2,620.0	133	
10月	8,982	39,580	4,079			52,641	420.5	125	
11月	7,277	34,784	4,983		13,500 泉 ケンタ	60,544	404	150	
12月	3,700	44,399	6,036			54,135	344.5	157	
小計	19,959	118,763	15,098		13,500	167,320	1,169	143	
1月	3,440	34,144	1,497			39,081	328	119	
2月	5,085	44,584	1,329			50,998	341.5	149	
3月	10,436	40,448	1,495			52,379	453.5	115	
小計	18,961	119,176	4,321			142,458	1,123	127	
後期合計	38,920	237,939	19,419		13,500	309,778	2292	135	
総合計	97,003	508,061	40,296		13,500	658,860	4,912.0	134	
	15%	77%	6%		2%	達成率	98%		

(4) 春日丘 年間売り上げ 302,000円

総作業時間 604時間

週3日の（月、水、金）の施設外支援を2人ペアで2hの作業を行った。一年を通じメンバーの定着化を試みてきたが、体験からシフトに至るまでメンバーの出入りが多い年であった。個別支援計画で、春日丘清掃を就労のステップとして作業をしてきたメンバーが、経験を生かし清掃の就労をすることができ、「春日丘では、清掃を行うと同時に利用者への配慮や気配りなどが学べて、就労をするうえで役に立ちました」と振り返ってくれた。

春日丘ミーティングを1回/3M行い、作業の注意点やルールの共有、春日丘スタッフからの要望事項の共有等を行った。また、メンバーの抱えていた不安要素を解決するために、前後半の作業配分の見直しを行った。見直し後は、焦りや不安感は無くなり時間を有効に使い作業することができた。利用者が居室におられる時の対応も自己判断で清掃するのではなく、春日丘スタッフに相談し、判断を仰ぐことを徹底する様にしてきた。メンバー自身、時間を意識しながら作業を進めることも難しいことではあったが、移動中極力時計を見て貰い、作業ペースの配分等も考えてもらう様にした。

メンバー募集の掲示やアピール方法の仕方を工夫しつつ、最も一般就労の求人の多い清掃へのステップアップの為に、やってみてはどうかとメンバーに訴えかけてきた。29年度は、見学者が5名、体験者が2名いたが、シフト従事には至らなかった。30年度に向けて見学→体験→シフトと一連の流れを作り、春日丘シフトがメンバーだけでまわせるように継続して取組んでいく。

(5) サロン 年間売り上げ 144,850円

総時間 473.5時間

週4回（月、水、木、金）、午前（10:30～12:30）と午後（12:30～14:30）の2シフト制で喫茶業務及び接客業務を行った。年度後半からは、4h（10:00～15:00）作業の体制も整備し、それに伴い、時給の変更も行った。

シフトを来店客の増える時間帯を職員と2人体制にしたことによりメンバーへの負担を軽減し、顧客への対応もしっかり出来るようになった。また、職員体制の変更に伴い、ベテランのメンバーには、4h作業の体制を整備し、よりやりがいや働きがいを持ってもらえるような工夫を行った。サロンの安心して来られる場所としての機能の中で、メンバーが大きな役割を果たしており、メンバーや地域の方々にとっての居場所になっている。また、様々な交流の機会を設けることにより、より地域に開かれた場所として、認知してもらえるように努めた。

(6) 醍醐寺 年間売り上げ 2,520,000円

総作業時間 1,012時間 月平均 234時間

週4日（月、水、木、金）の施設外就労で、通常シフト9:00~14:00の4hと9:00~15:00の5hのメンバーで作業を行ってきた。夏シフト（7月~9月）は、7:30~12:00の4hのみの作業で対応してきた。作業内容は、除草、落葉、不要な土砂等の除去等の営繕業務である。

29年作業の作業の拡大の取組みにおいては、上醍醐の清掃3日/1Mとトイレ清掃を3日/1W（月、水、金）で、12月より実施した。上醍醐においては、日頃手入れが出来なかった部分を綺麗にすることが出来た。「歩きやすくなった、水はけが良くなった」等と声をかけて頂き、メンバーのやり甲斐や達成感にも繋がった。「苦勞してもやって良かった」というメンバーの声が聞こえるようになった。トイレ清掃においても、「オリーブさんが清掃を行うようになってからは、お客様の苦情が途絶えた」と関係者から聞ける様にまでなった。上醍醐とトイレ清掃に伴う時間60h/1Mの作業超過費を関係者と交渉する場を12月に設け、3月末に交渉が成立した。

メンバー自身に更なるやり甲斐や達成感をもって貰えるように、日々の作業の段取りや流れ、作業場所などを決めてもらう様に取組みを行った。最初は、戸惑いや自信が持てない事もあり、メンバー間で協議したり、スタッフに相談、関係者に聞くなどしていたが、徐々に個々が慣れていくことができた。ブロワー購入時には販売業者にメンテナンス講習をしてもらい、専門的な知識を学び、得られた事は良い刺激となった。また、安全に、正しく道具を使い、どうやって道具の手入れをやるべきかを知ってもらうことができた。

ボランティアも毎週水曜日にメンバーと共に、5hの作業を行ってもらった。メンバーと力を合わせひとつの作業をまっとうするために、汗水をたらしながら助けて頂いた。

29年度は見学から体験に至るまでのメンバーは1名しかいなかったが、30年度に向けて更なる募集と呼びかけを行っていく。

(8) その他 年間売り上げ 199,036円

●レクリエーション・出店

	レクリエーション・行事	出展・販売
4月	4/22 写生会（京都府立植物園）	4/1 日吉窯元まつり 観桜祭 4/9 毘沙門市 4/22 京の手づくりマルシェ 4/29 やましろのタネ育みフェスタ
5月	5/16 バーベキュー（日野野外活動施設）	5/5 ぶらり嵐山にぎわいフェスタ 5/27 京の手づくりマルシェ
6月	6/15 ぶらりサロン （智積院、フラットすぺえす） 6/27 スポーツレク（スポッチャ）	6/24 京の手づくりマルシェ
7月	7/29 土曜レク（農園） 映画鑑賞、BBQ、花火	7/22 京の手づくりマルシェ 7/24 山科こころのふれあい夏祭り
8月	8/22 カラオケ（シダックス）	8/26 和光祭 8/26 京の手づくりマルシェ
9月	9/7・8 一泊旅行（白浜） るまん敬老週間 9/30 よってたかってコンサート	9/17 SKY ふれあいフェスティバル 9/23 京の手づくりマルシェ 9/24 gomacro マルシェ
10月	10/3 オリーブ農園芋掘り・バーベキュー 10/15 大相撲京都場所（チケットとりまとめ） 10/27 写生会（醍醐寺）	10/8 桂川 PA 10/14 東南フェスタ 10/20 ちーびずマルシェ 京の手づくりマルシェ 10/21 ちーびずマルシェ 矯正展 弁天マルシェ 10/22 洛和メディカルフェスティバル 矯正展 10/28 京の手づくりマルシェ ノートルダム学園祭
11月	11/24 ぶらりサロン （岩倉実相院、Café イマジン）	11/5 やったね秋祭り やませいあえるフェス 小山文化祭 11/10 ぶらり嵐山にぎわいフェスタ 11/11 岡崎いろどりマルシェ 11/23 やましな区民まつり

		つながるシェ 11/25 毘沙門市 京の手づくりマルシェ 11/26 よつ葉芋ほり交流会
12月	12/22 るまんサンクスクリスマス 12/28 忘年会（竹谷家）	12/2 京都YWCAクリスマスバザール 12/5 やましな学園朝市6周年 12/9 環境フェスタ 12/10 環境フェスタ 12/23 京の手づくりマルシェ 12/24 交通局
1月	1/4 新年会・初詣 （八坂神社、オリーブ） 1/19 きょうかれん文化の集い	1/27 ふれあい作品展 京の手づくりマルシェ
2月	2/23 五大力 2/6 鉄道博物館	2/24 京の手づくりマルシェ
3月	3/17 ぶらりサロン （三十三間堂、金魚食堂） 3/27 ハイキング （高尾～清滝～保津峡）	3/4 福祉・社協ボランティアフェスタ 3/24 京の手づくりマルシェ 3/29 醍醐手作り市



## 平成 29 年度 オリーブ相談支援事業所事業報告

オリーブホットハウスの利用者を中心に、年間を通じ計画相談支援を行った。また、共同生活援助の稼働に伴い、共同生活援助のメンバーの計画相談支援を行い、より関係機関との連携の機会が増加した。具体的には、日中のサービスだけではなく、居宅介護や訪問看護等、居宅におけるサービスや行政等との調整も増加した。事業が増えたことにより、法人として、支援できる幅が広がったことは評価できるが、同時に職員の資質の向上や体制の整備、調整能力等も必要になってきている。職員のやりがいやがんばりをあてにするだけでなく、無理なく続けることができる体制の整備も喫緊の課題となってきている。一事業所のみが抱えるのではなく、圏域内の事業所と連携し、支援を分有することで、継続したサービス提供ができる体制を継続して目指していく。

また、相談支援事業は地域でメンバーを支えていくため、必要な事業ではあるが、報酬単価等が低く、相談支援専門員も B 型事業と兼務しているため、事業の運営を考えると難しい部分も多い。30 年度より報酬単価も改正されたが、引き続き処遇の改善に向け、行政等と懇談を重ねていきたい。

### ■基本方針

#### ①サービス利用計画の作成

オリーブホットハウスの利用者を中心に申請時期を整理し、計画的な計画相談の実施に努めた。

相談支援計画案作成 33 件

#### ②継続的なモニタリング

サービス利用計画作成後、必要なサービス提供が行われているかを評価するため、面談や訪問等通じた継続的なモニタリングを行った。

モニタリング 45 件

#### ③訪問支援

複数の福祉サービスを利用しているメンバーに対し、訪問を行い、課題の整理やニーズを聞き取り、適切な福祉サービスの提供に努めた。

#### ④相談支援

計画相談支援時、また就労継続支援 B 型の個別支援計画作成時に面談をし、事業の利用意向を含め、生活課題やニーズについても聞き取りを行った。

#### ⑤事業所間連携

別の事業所や行政、訪問看護事業所等と連携し、様々な視点でメンバーを支えることに努めた。また、圏域内外で行われた、相談支援研修に参加し、計画相談の進め方や事例の共有を行い、相談支援専門員としての知識及び能力の向上に努めた。

## 平成 29 年度 グループホーム小山の家事業報告

平成 28 年 12 月 1 日から認可を受け事業を開始し、平成 29 年 6 月頃より入居が始まった。オリーブホットハウスのメンバーだけでなく、病院からの紹介により、退院患者の受け入れを行った。グループホームの数の少なさからか、病院や支援センターからの問い合わせが多くあった。入院中からの体験を受け入れ、1泊から始め、1週間と期間を伸ばし、本人のペースに合わせた調整を行った。また、あわせてオリーブホットハウスの利用の調整も計画相談支援で行った。他の事業所を利用されている方もおられ、その方は外部の計画相談支援事業所を利用している。体験のみで利用に至らないケースもあった。支援者の見立てや希望では、入居には至らず、「退院する、一人暮らしではなくサービスを受ける」といった本人の意思がないと当然ながら利用にはつながっていかない。

オリーブホットハウスの利用者で虐待が疑われる方への緊急の対応を行ったが、グループホームでのルール等に馴染めず、利用には至らなかった。行政に介入をしてもらい、次の支援機関につながった。利用者間での人間関係がしんどくなり、年度末に 2 名再入院となった。共同で生活することは、多くのストレスがかかる。様々なルールを作り、安心して暮らせる環境をつくるのが、求められるが、あくまで利用者ひとりひとりの自己決定や主体性を尊重して整備していきたい。

グループホーム自体が日中の居場所として制度設計されておらず、基本は外出することになる。また、病状によりホーム内で休養することもあり、日中支援加算はあるが、3日目からの算定といくつかの条件がある。障害支援区分では区分 2 と軽い方でも、実際は毎日の通所が困難であったり、状態によっては、休む場合が多い。制度の矛盾も抱えながらも、日々の支援は動き、24 時間の体制は続いて行く。生活を支えることの困難さを抱えながらも、地域移行を促進し、地域生活を継続できるような支援を継続して行っていきたい。

入居者 女性 2 名（区分 5：1 名、区分 3：1 名） 男性 3 名（区分 2：3 名）

年齢 40 代：2 名、30 代 2 名、20 代：3 名 平均年齢 36.8 歳

日中活動 オリーブホットハウス 4 名（東野 2 名、小山 2 名）、他事業所 1 名

### ■支援内容

- ①共同生活援助計画の作成
- ②相談援助
- ③食事の提供
- ④健康管理・金銭管理・服薬管理
- ⑤緊急時の対応
- ⑥日中活動の場等との連絡・調整
- ⑦レクリエーション活動（食事会、初詣、植物園等）
- ⑧受診同行（精神科、他科）
- ⑨日中活動支援